



# 学校だより「あ・は・も」

～「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」が自慢の塩川小学校～



平成29年4月10日発行 No.2 文責 塩川小学校長 佐藤 寅記

## ご入学、進級おめでとうございます。

4月6日、始業式と入学式が行われ、254名が進級し、54名の1年生が入学しました。

始業式では、それぞれの学年で下級生が増え、教える立場としての責任が増えたことなど、進級の意味を話しました。そして、「あ・は・も」を全校生のめあてにして、みんなでほめられる子になろうと話しました。

入学式は、54名の新入生が、担任の小林先生、遠藤先生の呼名に、「はい。」と、しっかり返事ができました。不安と緊張の面持ちだった1年生でしたが、6年生の歓迎の言葉と在校生の校歌に安心感と小学校生活への期待感を高めていました。



歓迎の言葉を立派に述べた6年生



## 「あ・は・も」で、伝統づくり・校風づくり



玄関を掃除する6年生。これも塩川小の伝統の一つです。

5日、教頭先生と街を歩いていると、「こんにちは。」と4年生児童が元気に挨拶してきました。着任式・始業式・入学式では、4人の6年生がノー原稿で素晴らしい歓迎の言葉を述べました。6年1組で、算数のミニ授業をしましたが、隣の人やみんなとよく話し合い、よく考えて根気強く問題を解く姿が見られました。私はとても感心しました。

この子ども達は、家庭で、地域で、学校でこのように育てられたのです。私は、地域性や塩川小の伝統・校風というものがこうした子ども達を育てたと考えます。伝統・校風には子どもを育てる力があるのです。「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」の力が身に付く学校づくりを通して、塩川小学校の伝統・校風・学校文化づくりをしてまいります。

## ちょっといい話



金曜日の朝は雨でした。玄関に入る前、1年生が傘に付いた雨露を上手に落としていました。「えらいね。」と声をかけると、「うちでもやります。」と、ちょっと不機嫌そう!?に言ってきました（“当たり前のことをしたまで”の意味）。ご家庭の教育・しつけの高さと、その教えを実行する素直さがすばらしいですね。



伊藤智美先生 高畑用務員

もう一ついい話をします。初めが肝心と、G先生が傘立ての所にいて、傘をさす場所やきれいに立てる方法を教えていたのです。さりげない姿に感心しました。



給食調理員のみなさん

左から、中川浅子さん、安部智理さん、吉田美恵さん、新井田弘美さんです。

「子ども達に「おいしい」と言ってもらえるよう、全員で協力し合ってつくります。よろしく願いします。」

【訂正】前号に誤りがありました。下記のように訂正しますのでよろしくお願いします。

「気持ちが伝わるあいさつができる子ども」(共助・協働、コミュニケーションの力を身に付ける) [正]

「気持ちが伝わるあいさつができる子ども」(自己啓発の態度を身に付ける) [誤]